

「LUNCH」

作・広田淳一 2009.02.03

登場人物・出演

ギーコ ……
スランプ ……
ナイル ……
板垣 ……

※台本、記述上のルール

◆セリフ中で、(LUNCH) カキカミコトに入っている文字は発音されない。

嘘をつくことは、社会的であることの証明だ。

前提

とある町のガソリンスタンド。

ガソリンを入れるための装置はどれもホコリを被っており、頻繁に使われている様子はない。店の看板には「カルタゴ・ノヴァ」と書かれている。

店名はこの町の名前「カルタゴ」に由来する。

店にはもう一つ別の看板が掲げてあり、そこにはクッキーの絵が描かれている。

看板はきれいに掃除されている。

真新しさの残る様子からそれが比較的新しいものであることがわかる。

カルタゴは小さな港町である。

町は手狭ながらも、太陽の光に満ちて明るく、近代的で新しい。

かわりに伝統に裏付けられた儼かな雰囲気や、

計画的に整備された町並みとしての美しさがここには無い。

潮風のおおい。

港には小さな漁船もあるにはあるがあまり多くはなく、商業用の中・大型の船舶が目立つ。

海水には塩分が特に多く含まれているが、

海岸のところにどこで何かの鉱物が白く結晶して堆積している。

潮風はいつでも乾いていて砂漠に吹く風のようなものである。

砂漠が大陸を侵食していつか、そのまま海にぶつかったような土地。

町は数十年前の戦争から急速に復活を遂げたために、

ところどころ穴の開いたように廃墟を残しながら繁栄している。

「カルタゴ・ノヴァ」はその町の外れにある。

港町が内陸に入って一回はつきりと終わった辺りに、また逆に内陸から続く砂漠の終わりに、記念碑のようにポツンと1人の店は建っている。

第一幕 人違い・取立て・開戦

◎プロローグ

舞台上にイスが一脚置いてあり、傍らに新聞がある。

椅子には女（スランプ）が腰掛けていて、新聞を読んでいる。

と、コーヒーカップを持った男（ナイル）が登場。

飲み物を多く入れすぎたと見えて、零さないようにかなり慎重になっている。

ナイル、新聞を読んでいるスランプを見て、

ナイル 今日は何があんの？

スランプ いつも通りかな。

ナイル いつも通り「危機的」？

スランプ ん？ うん。

ナイル まだ戦争になんのかもしれないな……。

スランプ (笑) ナイルさんの話だとなんか年中戦争が始まっちゃうみたいだけど。

ナイル うん……。

少しの間。

スランプ ……じゃ、どっかに逃げちゃおうか？

ナイル ええ、どうだ？

スランプ ミナトの向こうか、サバクの向こうか……。や、あたし考えたんだけどね、

ナイル うん。

スランプ どっか誰も知らない国にいつてさ、とにかく人がうじゃうじゃいる都会の中に紛れ込んで

やって、それで誰もあたしたちを知らなくて？ そういつとで喫茶店みたいのあったら、……良くない？

ナイル 喫茶店？

スランプ ナイルさんがおいしいコーヒーを選んであてたしが紅茶煎れてさ。そんなに大きい店じゃなくてもいいの。十人も入ったらいっぱいになっちゃうよ。ちっちゃいけど、ちょっとゆった

りした感じだよ。入口のところに鈴があつて、ドア開けると『クロンクロン』っての。ちよっど低い音で。『クロンクロン』。

ナイル 夢が広がるね。ギー「はひひすたよ」。

スランプ 夜になったら照明がラッと変えてバーにしてさ、ギー「がシェイカー振ってお酒作んのよ。

ナイル ふーん、キャンドルとかつけちゃって？

スランプ そっすっすー！ キャンドルとかつけちゃってー。そしたらナイルさんもまた堂々と研究とか出来るんじゃないかなあ、と嬉しい。

ナイル ダメダメ、そんなの……。

スランプ なんですよ？

ナイル このスタンド守るのも仕事だよ。

スランプ いつまで？

ナイル いつまでってだから、……最後まで。

スランプ、不満が残るが仕方なく黙る。ナイルを見ない。

ナイル、スランプをちらちら見て、

音響：S 飛行機の音。

ナイル、遠くを見る。

ナイル (スランプに) あれにもエレファントが乗ってんのかな？

少しの間。

ナイル ……低く飛ぶなあ。

続いて音楽。

◆字幕 一幕

とある町のガソリンスタンド。

看板には大きな文字で

「カルタゴ・ノヴァ」

と書かれています。

店名はこの町の名前「カルタゴ」に由来する。

カルタゴは小さな港町である。

町は数十年前の戦争から急速に復活を遂げたため、

とてつもない穴の開いたようにに廃墟を残しながら繁栄している。

ガソリンスタンドはその町の外れにある。

港町で、砂漠が、それぞれ遠慮し合っていて出来た空白のような場所に、

ホシノユウの店は建っています。

或る日の夕暮れ。

SE 自動車音の音場音。

◎晩方 板垣、登場

男（板垣）登場。やや疲れた様子。

板垣 あの、すみません。

無言。

板垣 すみません、あのー。

ナイル セルフだから勝手に入れといていいよー！ あ……、タダって意味じゃないからね。

板垣 あ、そっじゃなくあの……、……ギークさんのお住みは「じゃりんこ」ですか？

店の奥から、ナイルが出てくる。

顔を見合わせて無言。

板垣 あの、ギーク、ギーク・パレルモ。さあ、こちらにお住まいですかね……？

ナイル（頷いて）それから、多分、今日は遅くなるから、それ、まだロイヤル、改めてもらって。明日だったら一回家に帰ると思うから。

「と、いいながらナイルは早くも奥へ引込んでしまっている。

板垣はそれをしゅんとして、

板垣 それじゃ待たせてもいいですか？ ちょっと車が、ガス欠起こしちゃって。

ナイル ガソリンもあるから入れてあげよう。

板垣 あ、ホントですか？

ナイル だって、ガソリンスタンドだからね。うち。

板垣 ああ、ですよ……。いや、なんか表にクッキーの看板しかなかったから、と聞いて。いや、クッキー。なんかクッキーの看板があるじゃないですか、あの、

ナイルは板垣から早くも少し離れて奥へ向かっている。

ナイル あれは副業していつか。……ま、スタンドが副業みたいなもんだけれど、

板垣 それでこんなクッキーのにおいがするのよ。

ナイル そうかね。

板垣 これはなんか、ちょっと甘酸っぱい、なんですかね、木の实なんか入ったクッキーですか？

ナイル いや、わかんないよ。

ナイル 貸してたのあんたが？

板垣 はい。

ナイル ギーロー？ 金を？

ナイル、板垣を嘲るように笑っている。

板垣 や、そんなのあんたの知ったじつちやなごらじよ。現に俺は貸してるとは言わなかったよ。どうしかめんだギーローの何なんだよ？

ナイル そいついじ聞き方をされて答える義理もなごらじよな。

板垣 ああ、そつですな。すみませんでしたな。

ナイル んじや、中、中じいぜ……。

ナイル、板垣を部屋の中に入れてみる。

◎晩方 紅茶のスヌメ

板垣 おおー、まんまだなあ。

ナイル ん？ なに、入ったじいぜんの。

板垣 まあまあまあ……。

板垣、言葉を濁す。

スランプ、登場。

スランプ くらっしやい。

板垣 あー、ごじも。

スランプ お答なごら？

ナイル いや。ギーローになんかあんただったよ。

スランプ ああ、そつ。あれ、あの、ごじいったお友達、で？

ナイル や、俺も今会ったじいぜだから。

板垣 あ、あの、すみません、板垣です。

スランプ 板垣さん。あたし、スランプです。

板垣 はい、スランプ？

スランプ あ、別に不調が続いているわけじゃない。そつじいぜ……。

板垣 あ……。

スランプ (自分を指して) スランプで、こつちはナイルさん。

板垣 スランプさん、ナイルさん(それぞれ確かめる)。ナイルさんでなにか聞かせたよ。つけ、ちょっと有名な人で、あの……。

ナイル 遠くから借金の取立てなんだってよ。

スランプ 取り立ち？
ナイル 金、貸してんだって、ギークに。
スランプ ヘー？

スランプ、とても驚いた様子。むしろ信じられなくて少し笑っている。

板垣 なんですか。俺が借りてるってんなら話はわかるんですけど？

スランプ まあね。

ナイル お金に困っている人じゃないし。

スランプ あれ、板垣さんは、どういふ関係の？

板垣 ま何ていうか、昔の友人、ですよ。彼女が帰ってきたらちゃんと改めし話します。

スランプ (ナイルに) 今日どこ行ってんだっけ？

ナイル ハービーのビル。

スランプ あ、そこ？

ナイル また払いが遅れているとか言ってる。あとまた続へようだったけど店員がじまじまなってる。

スランプ あ、そこで何、ギークが自分で新しい店開へんか言ってるわけ？

ナイル や、それはまた別の話だけど……。

スランプ 本気なんだあの、レストランやるって話。

ナイル うん。なんだかさつみたいよ。

スランプ ふっん……。 (板垣に) あ、お茶とか飲みます？

板垣 あ、じゃあ。

スランプ お酒の方が？

板垣 イヤイヤ。コーヒーかなんかあわね。

スランプ 今、紅茶しかないんですけど……。

板垣 あ、なら全然、紅茶で。

ナイル 酒なんか出さういふういふ……。

スランプ あーとね、セイロンとダーズリン、アールグレイ、どれがどうですか？ あと、オレン

ジ、ペコロス、スマリーとあ、レモン、グリン、スなにかしゃきゅうと、どういふか、有意義作用あるから。

板垣 じゃあ、よくわかんないですけど、その、レモン、グリン、ス。

スランプ クッキー召し上がりますか？

ナイル いいから早く持ってきてよ。

スランプ なに？ どういふお題。

ナイル どういふお題。

板垣 クッキーも、じゃあ、ごちそうです。

スランプ ちょっぴり待ってね。

スランプ、退場。

スランプ タイガーに？

ギーコ そう。したら流石にちょっとなんか、何？ んん……みたいな顔してたから、何、何か文句あんの？ って言ってるやつ、そしたら、(笑)、何もありません、て大人しくなっちゃって。腹が立ったんなら女の一人ぐらいいびん殴るなりなんなりしてみりゃ良きさつなもんなのに、そついつニイタラクなわけよ。

スランプ ギーコにそれやるとまたちよつと大変だと思っけど……。

ギーコ ていつかあんたちよつと入い、あんだ何、ちよつと、へイあんだ。

板垣 あ、俺？

ギーコ 「あ、俺？」じゃないよ。あんだだよ。なにあんだ？ 人の家に堂々と上がりこんであたしの何、なにになにない、どちから様？

板垣 いやあ、元気だね、ほんと。全然喋るトマなかった。これようやく俺、挨拶とかしていいターンが来たんだよね？

スランプ ですね。

ギーコ 誰？

板垣 あ、板垣、板垣。わかんないか。

ギーコ、板垣に言われたことが不可解らしく、彼の顔を凝視している。

スランプ 知っている人？

ギーコ 知らないよこんな、つか何？ あんだ板垣となんか関係ある人？

板垣 関係するつか、だから、本人。

ギーコ、不満そうな態度。

ナイル 何、知らない人なのこれ？

板垣 いや、そついつとどじゃなくて。久しぶりに会うもんだからなの。

ナイル (板垣を無視してギーコに) え、知らない人？

ギーコ、縦横に首を振っていて、答えが判然としない反応。

ナイル どつちだよ……。

スランプ 板垣さんて人は、お知り合いなの？

ギーコ 板垣は知っているけど、おまえ……誰だよ。

板垣 まあ随分前だからね、一緒に暮らしてたのは。

スランプ 暮らしてた？

板垣 まあ、はい。

ギーコ っつて、え？ ちよちよちよ、待って本人？ 本人てことを言っただよおむんっ？

板垣 そついつ。

ギーコ え、じゃあ聞きませうけど、は？ ぜんぜん顔が違ひたすけど？

板垣 うん……。そうなんだよ。見間違えるのは、そりゃそうだと思うんだけどね。

ギーコ あんたが板垣だつてんなら、まだしもナイルのほつが似てるよ。(ナイルを見て) あ全然似てる。

ナイル らしいんだけど、……。どう？ オジナルから見？

板垣 ああ……。ああ。顔はちょっと似てるかもしんない。でも骨格が全然……。

ナイル あ、そう？ (笑)

板垣 違うんだあの俺さ、整形したから。思いつきで。

ギーコ セイケイ？

板垣 うん。整形手術して。ホラだつて、身長は同じくらいだよ？ 骨格的にはまんまだから、チハ見て。前は、もうちょっと肉ついてたかもしんなら、

ギーコ あ、あの、あの、

板垣 全体の雰囲気と同じホラ、顔にこだわらなく。

ギーコ こだわるとしょ。え、バカなの？ 全然、顔、こだわりますけど。ほつが似て無ければ、なんだよ、くらなるとも。

ナイル、少し笑っている。板垣の方へ歩み寄り、

ナイル そしたらあんた帰ったら、ひだ、せ、

板垣 っささささ

ナイル っささささ (じゃなへくれ)。

ギーコ ほつつか何回も整形する必要があるの、そんな原型わかんなくなると、地雷の処理も、ほつつか、

板垣 あ、そんなやつなもんだね。

ギーコ ほつ？

板垣 顔の半分くらいを、一回無くなると、半分くらい俺は。

スランプ 半分くらい……。？

板垣 ひつじに怪我して……。だからそれを治すためには結構な時間と、結構な手術が必要になったわけだよ。ほつつか事情がなかったら、せめて、ほつつか、キーコのほつつかも帰ってきたんだ、ほつ……。

ギーコ ちよっ、ない？ 無理なだけで、そねギャグがじゃなへつと、ほつ……。無理メン、

ギーコは暗へ混りこんだ様子。

スランプ それじゃ何か、証拠みたいのはないんですか？ 顔がまあセイケイ？ しちゃったとしても、なんか証拠があわね、ね……。？

板垣 そりゃありますよ。俺だって一応、これは理解しがたい状況だろうな。ってのはわかっていますわね……。

板垣、カバンからメモを取り出して何やら文字を書き始め。
書き終わってそのメモをギーコに渡す。

板垣 はい。

ギーコ、それを受け取る。スランプがそれを横から覗いて見へ、

スランプ 何、これ。サイン？

板垣 そっすっ。筆跡とか、骨格とか、そっすっものは変わってないわけだから。

引き続きいへ、板垣は何かを素早くメモにうつらして。

スランプ (ギーコに) ねえ、ちょっといい？ もし彼がその板垣って人だったら、それはギーコの何になるわけ？

ギーコ それはまあ、

板垣 兄妹とかではないですよ、だから。そっすっ、ね。

スランプ ああ……。

ギーコ で何、それで、今更何か「用」でも？ っていうかそっすっ「用」は何？

ナイル お金を返して欲しいってことだよ。

板垣 黙っててくれたらいいよ。

ギーコ お金？

ナイル そっすっすっ。

板垣 貸してあげてよ、一応。ま、預けているっていつか……。別に俺だって返してもらったらきのギーコの生活を邪魔しようってわけじゃないから……。……。

ギーコ 返すってそんな……。……本人かどうかもわからない人に？

板垣 あー、ほらー！「ここ大事だよ、ちょっと、ナイルさんもスランプさんも聞いて欲しいんだけどさ、この人だって板垣本人にだったら返す気はあるわけだよ。ね？ 本人にだったら返さなきゃいけない何かがあるわけだよ。ね？」

ギーコ、認めざるを得ない、とこっすっ様子どうなっすっころ。

スランプ ホントなんだ……。

板垣 ひとまず俺が本人かどうかは置いておくとして、ギーコ・パレルモという人間が板垣ジュシユコという人間に金を借っている、しかもそれは事実だかぶり。でしょ？ ほら、ここにちゃんと証文だってあるんだからいい。

板垣が証文をカバンから取り出す。
ナイルとスランプはそれを見よつと覗き込む。

ナイル どれどれ。

板垣 いやいや、渡さないよ。大事な書類だからそんな。ビリーとかされたらなあ。

スランプ ええ（不満）

板垣 借したお金返してください。ってのは、これそんなにおかしなと言っていないでしょ、ね？

ギーコ、否定しながら「はい、肯定するものがない無言」。

板垣 ああ、あれも渡してあげますよ。はい。

スランプ 何？

板垣、ギーコ「F1用のびんご日記帳を渡す」。

そしてすべし自分はまだ新しくメモに何かを書き始める。

ギーコ、日記帳を開くしみる。

ギーコ なに、日記？

板垣 みたいなもの。結構、分量あるからまじまじと見とくしよ。それとまあ、こんな情報が役に立つかわかんないけど……。

板垣、今、書いたばかりのメモを渡す。

ギーコ、それを見て絶句する。

驚いた表情は見せないが、スランプから見えないように「紙を隠す」。

ギーコ これ、板垣があんたに教えたの？

板垣 本人だから。

ギーコ 全然、記念日とか気にする人じゃ無かったのに……。

板垣 そういふごぶりをしなかっただけで、忘れてたわけじゃないでしょ？ 節目節目は。

ギーコ なんかもつそれすっぴんカツラからやめてへんなんか……。

板垣 何が？

ギーコ 板垣のフリをすんのをさー！ ていつかさ、誰なのあんた？

板垣 だから……あれ？ なんだらう、……あれ？

板垣、少し歩き出ししる。

板垣 さっきからななやかたをこいて、結局、金を返すしもらはなごうじや……。

ビルでも、元々全然違う顔にしちゃえば、それはそれで、新しいジャンルの顔というは10点だとなつて思える時が来るんじゃないのかっていうのを、そういう話になつて

ギー「 ははははは。もうどうもじゃあわかったよ。わかったわかった。

少しの間。

ギー「 もしもね、あなたが本物だつていじがちゃんとして証明できたら、今のあたしが持つていってるのはなんもかんも全部あげていいですから。っていうか、返しますから。だけど、あなたが本物だつていじがはつきりするまでは絶対に何もしなうからね。あと、嘘つていじがわかったらあなたを殺す。……そねえええ。

少しの間。

板垣 証明して、何をすればいいわけ？

ギー「 わかんないけど。あたしの中ではつきりするまじ。

板垣 そんな曖昧な……。

ギー「 あんただつて、そんなにスイスイ行く話じゃないっていうのはわかってるでしょ？ 相当な金額の話なんだからや、

板垣 あんまり長引くと困るんだけど……。

ギー「 じゃあ、帰りますわー

少しの間。

ギー「 や、不愉快だからね大分、あなたの言っていることは。わかんない。

板垣 ま、借りたもん返さない人も大分不愉快だとは思っけど……。でも、納付できないうつていう気持ちもわかるしね。うん……。

板垣は段々と部屋の中で自分のくつろぎ空間に移動する。

客人のいるべき場所から、主人のいるべき場所へ。

板垣 長いこと悪かったね。

少しの間。

板垣 そんな一言で済ませようしないよじゃなごのはわかっているはず、一応……。しめだね。

ギー「 ホントにびっ殺したい。

ナイル、板垣に歩み寄りして

ナイル (ギーコに) ユウウウ…なんだしたらカチカチ通るおかし…
スランプ やめていい、そう言うのは。

ナイル 口で言っていた帰らなごよ、もうごめなごめ…
スランプ やめていい、そう言うのは絶対、やめて。

ナイル そりゃ俺だって暴力はイヤだけごめ、

スランプ やめていい、負けるから。

ナイル え……？

スランプ 負けるでしょ。カズくとカ無理じゃん、ホントは。

板垣 ……そう言う方は、傷いへよ。

スランプ だってあたしナイルさんがカズくとかいつて実際勝ったと見た時ないからな。

ナイル んなごたアないだろ、

スランプ いや、あるから全然。とにかくやめて。怪我もするし。恥をかいてから。

ナイル 完璧負け前提じゃねえか……。わかったケーサジ呼ばひしたら。そんならスランプも反対
じゃないだろ？

スランプ ええ……。 (そんな一大事にしてごうのかしら？ とごう意味で板垣を見る)

板垣 まあ、どーぞ。そうしたいんなら……。

ナイル ほんじゃ、スランプちょっと……。

スランプ、警察に連絡をしようじゃね。

ギーコ やめてやめてやめて。ケーサジとか大嫌いだからマジやめて。

ナイル そんなこと言ったって……。

ギーコ やめていい呼ばなごめ。

板垣 呼ぶの？ 呼ばないの？

ギーコ 呼ばないっていつてんじゃんだから。はうはい。呼びませと。

板垣 うん何？ そんなじゃあ、返してもらえなごめわね？

ギーコ だから言ってるじゃねそれも！ 金返して欲しいんだしたら、あんたがあんただとして
完璧に証明してみせしー！

音響：外では飛行機の音。先のシーンの途中からその音は段々大きくなっていきい。

ナイル、窓の外を見て、

ナイル スキピ才軍だ……。

板垣も窓の外を見て、

板垣 ああ、早いなあご……。

ナイル 完全に領空侵犯じゃねえか。舐めやがって。何をやってたたた軍は。

板垣 ちよっ、ちよっと俺、出てきますよ、あのガリソンだけもらってまう？
ナイル 今？ やめとけよ外は。

板垣 これはまだ威嚇でしょ。じゃあ、勝手に入れさせてもらうから。
ナイル やめとけっこのだ。おい！

板垣、退場。

ナイル 何だよ、大丈夫かあいつ？ (板垣に) おーい！ やめとけっこ！

ナイルもそれを追いかけて退場。

ギーコは窓の外を見る。それを見ているスランプ。
それから、スランプも空を見て、

スランプ わあ……。

音響：飛行機の音が大きくなる。
照明変化。

第二幕 買物・夢日記・国外逃亡

◆字幕 一幕

板垣はナイルの制止を振り切って港へ向い、そのまま帰らなかった。

この時、始まった威嚇飛行はスキピオ空軍、

『マクスウェルの悪魔』

によるものだった。

彼らは『エレファント』のみで構成された、

「撃滅不能」の特殊部隊である。

『マクスウェルの悪魔』の展開に合わせて、

陸・海軍もそれぞれカルタゴを包囲。

三方を封鎖された小都市国家カルタゴは、

強制的に戦時体制へ移行することを余儀なくされた。

時の政治学者ハルサメ・ユキムラは事件を評してこう述べた。

「これでカルタゴはビン詰めにしたネズミだ」

6日後。

朝。

早朝

◎早朝 南国エレキテル

冒頭と同じ風景。

ただ、今回はスランプとギーゴがイスに座っている。

黙って座っている一人。ギーゴは何やら手帳のようなものを文字を書いている。

と、そこへナイル登場。新聞を持っている。

スランプ 何、どつしたの最近？

ナイル んん？ 何が？

スランプ サバクの新聞は読まないんじゃないの？

ナイル ま、大ニュースだから一応ね。

ナイルは新聞に目を落とす。

スランプはそれをじっと見ている。

ナイル いいよ別だ。どっちにする腰砕けなんだ。

スランプ、困ったとていつか風でギーコを見る。

ギーコ 4コマのレベルだったらダントツでサバクなんだけどね。

スランプ 『南国ヒロキテル』これ超好きなんだけど。だってこの田のよかすけとていつか風で
でロクロ回しててなの、4コマで宇宙ロケッポ。

ギーコ 発想が違いわ……。

ナイル 勝手にしてへね、まあー

ギーコ なにそんな怒ってなの？

ナイル、よじやへ少し落ち着く。

ナイル 頭を冷やそう。

スランプ ん？

ナイル 『ぼーっとしている人間が出し抜かれるような世の中であつてはならぬ』

ギーコ またマジーナ市長？

ナイル そう。マジーナ市長の回想録はカルタウ市民なら絶対に読んでおいたほうがよい。

ギーコ うんうん。

スランプ ま、そのうちね……。

ナイル、席を立ち、退場。

◎早朝 スランプ

ギーコ でもなんだったんだろうね、あの人……。

スランプ んを？

ギーコ ほら、いらないの……。

スランプ ああ……、イタガキさん？

ギーコ の、ニセモノ。

スランプ 結構気に入ってた。

ギーコ 別にそのうしろつけじゃないけど、何だったのかなあと思って。

スランプ ま、まあ、おぼろげにうかがうか？ テンペンにうかがうか？

ギーコ テンペンかあ……。

スランプ テンペン、テンペン。

少しの間。

ギーコ あれ、何で騙すのよ。メテンっていうんだらうね？。メテン……。何語？

スランプ それはあれでしょ。え？ 知らないの？

ギーコ なに？

スランプ あのほら、マヤ文明であるでしょ？ あの大陸の方ね、

ギーコ マヤ文明？

スランプ うん。あそこにあるの、エル・ミッドールとかナクベっていう有名な古代遺跡があるんだ
け、ね、そいつのがメテン低地っていう場所にあるんだよ、

ギーコ はいはい。

スランプ でその、メテン低地の遺跡の近くに住んでる人がね、その、観光とかで来る人と商売を
やって暮らしてただけね、全然あの、そいつらにはあるしよ、でもない食器にちよつと土と
かをつけて？ 古代遺跡のあれですよ、な、な、な、売っててえ。そんでな、メテン低地の人

間は騙すな、みたいなの？。メテン、騙す、騙す、メテン……。みたいなの。あはははは。……信じてる。

ギーコ なにちよつと嘘なの？。ええ？

スランプ 信じてないでしょ、普通。

ギーコ もう、なに……。……

スランプ いや、だけね、ね、本当にメテン低地ってのはあるから。ね。それは、メテンだからー

ギーコ な、なに、メテン？

スランプ 事実としてだよ。

ギーコ じゃあ「事実」といってはいいじゃない？。な、な、な、のホント。

◎早朝 トイレットは茶を

ナイル、コーヒーカーップを持って帰っている。

ナイル 何、何の話してるの？

スランプ ファクトリー。

ナイル 何だよ、それ？

ギーコ 違う。なんだっけ。

スランプ だからあの人がよ、イタガキさん

ギーコ あー、そいつ。

ナイル ふうん……。……

ナイル、座る。ギーコ、席を立てて先ほども書いていた手帳をナイルに渡す。

ギーコ はい。お願いします。

ナイル うん……。……

ギーコ お湯まだ余ってる？

ナイル んー、一人分ぐらいならギリギリ。

いつくるからわ。

スランプ 封鎖とかないわー。

ナイル あるんだよそれが。国境にまたがる移動は全面禁止だつてよ。

スランプ ないわー

ナイル なくねんだよだから、

ギーコ ま、でも行ってるよ。

スランプ もしかして探りに行ってるじや、彼を？

ナイル え、そのなの？

ギーコ じゃなくってさ……。ミナトの新聞買ってる。

ナイル いやーよ。読まないから別に。

ギーコ あたしが読むんだけど。

ナイル ああ……。

ギーコ それにスランプさん、今日、何日かわかってはりますか？

スランプ ん、二十五日だけじゃ？

ギーコ フェニキアン発売日やん。買わなあかんやん。

スランプ なになに？ 何で今月に限ってそんなフェニキアン押してる？

ギーコ あれ、あんた知らんの？ ややわあ。今月あねやで、家庭で作るフスキー特集やで？

スランプ げ、要チェックやんかあ。

ギーコ せやろ？ ならあべこべじゃ。

スランプ べいべい。

二人、席を立って出発の準備を始める感。

ギーコ ほんならあと、よろしゅうたのんます。

スランプ ます。

ナイル、黙ってうなづく。

ナイル 突っ込まないぞそんなもん……。

午後

◎午後 夢日記の時間

ナイルが一人で夢日記を読む時間。

このシーンで数時間が経過する。

ナイル 板垣を自称する「セモノ」の男が来た日の夜、久しぶりに鳥の夢を見た。いつもみたいに私は鳥になっていて、鏡の前に立って自分の皮膚をじっけりと観察している。そのあと私は、沢山の皮膚のただれた鳥達に混じってよくわからない形の肉を食べ始める。ひとつの肉の塊に沢山の鳥達が群がって大騒ぎ。他の鳥達は私をどかさないと自分の分け前が残らないと思って、みんな必死。それでも私はどかない。どいてやる理由がどこにも見つからない。と、思って肉を食べていたら、それが私の猫だ、ってことに気がついた。私はいっぺんを悟る。さっきから一生懸命になって私が食べていたのは私の猫ちゃんだ……。ママ、パパの毛並みには見覚えがあった、そうかそうか！と、思うと、見る見る肉の塊に毛が生えだしてびっしりと肉の全体を覆いつくした。

ギーコ そこで目が覚めた。目が覚めても、なんだか私は鳥のままみたいな気分がした。そうだ、私はどかない。そう思って、鏡を覗くとそこには、ただれた皮膚の私が立っていて、私はどかなくていいんだ。そう思った。

ナイル 突然、身体の方こう側で私の夢と板垣の日記がパシーンと繋がった。

ギーコ 理由はわからない。根拠なんて何も無い。だけど、これを書いたのは絶対、板垣だ。

ナイル 昨日リビングで会ったあいつが本物がどうかはわからないけれど、少なくとも、この日記をこの紙の方こうで書いたのは、確かに私の知っている板垣だ。

ギーコ いつかあの人がこの紙の方こう側について椅子に座り、ペンを握り、そしてこの文章をしたためた。という確信。

板垣 そう思ったら、この紙はもうただの紙ではなくなった。

ギーコ 十数年ぶりにあの人の手に触れている。という確信。

◎午後 板垣、再び

板垣、登場。

なにやら疲れ果てた様子で服のあちこちが汚れている。

ナイル あれ……？

板垣 じいせ

ナイル あれわれ、どうしたの？

板垣 いやーホント、散々な目に遭っています。ちょっと水もらしてもどうですか？

ナイル、早速水を取りに行きついで。

ナイル 歩いて来たの？ ミナトから？ (驚き)

板垣 だってしょうがないでしょ？ すっからかんだもん。

ナイル 車どっしたの？

板垣 売っちゃいました。

ナイル なんで売っちゃったんだよ。あ、国外へ出ようとして？

板垣 そうですよ。どうにか船に乗り込むまでは良かったんですけど、船の中でまた金出せって話になっちゃって、だれも金はなかったし、そんなまあ、追いつかなくて、立ち往生ですよ……。

ナイル びん詰めのネズミってやっだ。

板垣 びん詰めの……？

ナイル あれ？ (新聞を示して) 読んでない？

板垣 ああ……。あれは、我々全員のことを言っているんですよ。

ナイル お、嬉しいね。カルタゴ市民を指して「我々」って言うんだよ。ナイルは市民同士の会話が出来るって感じだな。

板垣 他の人はどっしたんです？ ギーゴとあの、あの……、

ナイル スランプね。二人で買い物行ったよ。ミナトの新聞買って帰るっついで。あんたはミナト派？ サバク派？

板垣、その質問には答えない。傍らに置いてある鳥カゴを見つめて、

板垣 何ですかこれ？

ナイル ん？ ああ、……鳥カゴだよ。

板垣 鳥カゴ？

ナイル どう見たってそうだろう。鍋に見えないだろう？ サラダボールに見えないだろう？

板垣 見えません、見えませんが。いや、鳥カゴにじゃ鳥がいらないから……。

ナイル いや、元々いねえんだ鳥は。

板垣 はあ……。

ナイル 鳥は居なかつたんだけど、鳥みたいなものが入っていたっついで……

板垣 みたいな？

ナイル エレファント。

板垣 へー、こんな小さなカゴに、……家が？

ナイル 入らねえよ。

板垣 ですよ。へー。鳥型のエレファントなんて、そんなもんがあるんですか？

ナイル おう。見た事ない？

板垣 いや、こいつが、エレファントは人型のもんだだけだと思ってました。え？ だってあんたも

ん個人で所有できるもんなんですか？

ナイル あの前は軍の方にもシテがあったからそっちから融通してもらったんだけどさ、いや、エサあげる時に逃げてっちゃって。でもなあ、……なかなかコイツを片付ける気になんなくて。

板垣 へー？

ナイル なんといつかさ、鳥がいなくなったって、籠がありゃ面影みたいなもんは残るだろう？

少しの間。

板垣 なんか、ロマンチックなところの気持ち悪いっすね。

ナイル うるせえな。食べる？

板垣 何すか？

ナイル ん？ クッキー。

板垣 ああ……

ナイル 通信販売つすから袋詰めしてっわ。

板垣 へー、わざわざ通販でそのクッキー買った人がいるんですか？

ナイル 居るんだよ。いやね、俺も最初はよくわかんなかったんだけど、一汁はいいわで奥が深いっ
てっつかね。

板垣 はいはい……。

ナイル クッキーついてもいっそんなものがあるんだな。確かにスランプのクッキーはね、値段の
しにはマシな味がすねんや。

板垣 へー。じゃ、ひとついただいてもいいですか？

ナイル お？ うん。

ナイル、クッキーを渡す。

ナイル ……はい。

板垣、それを食べる。

少しの間。

ナイル ところであんた本当に板垣って人なの？

板垣 ギーコはなんかいつてました？

ナイル 日記を書いたのは本物だろうっ。っ。

板垣 あ、あ、そのひですか？ じゃあ、信じてっわたとっすね。

ナイル いや、日記はね。あんたの事は知らないよ。

板垣 ああ……。濃いつすねなんか。

ナイル ん、合わない？

板垣 ちっじ……。っ。

ナイル じゃ返った。

板垣 もう食っちゃいましたよ。

ナイル 合わないんだらって？ ま、人それぞれ、最高の一枚では違っからな。

板垣、知った風な口を利くナイルが可笑しくて少し笑う。

ナイル、少し身乗り出すような形になって、

ナイル しかし筆跡とか骨格とかそういう状況証拠は揃ってたからさ、あとは一つだけなんだよな。

板垣 何ですか？

ナイル 何であんたが自分の顔を作り変えなくちゃいけなかったのか？ 俺もあの日記読ませてもらったんだけどどうしてもそこがわからない。

板垣 まあ、ニセモノですからね、ほんとは。

少しの間。

板垣はクッキーを食べている。

板垣 ……なんついたら満足なんでしょうけど、そうでもないぞ。

ナイル じゃ、どうして顔を作り変えた？

板垣 だからこの間説明した通りですよ。「完全には元に戻りませんよ」って医者に言われちゃったから……。

ナイル ちょっと待って、あんた、ベルベル戦争に行ってたってことはいいたよな？

板垣 え？ ああ、そうですよ。従軍してらしたんですか、あの、ナイルさんも？

ナイル まあ、俺は内地で後方支援だけね。昔から肺が弱いからな。

板垣 それはまたよくある嘘だ……。

ナイル (笑) 嘘じゃないってことがまた情けないだけだな。そうか従軍してたっていうんならもうちょっとあんたを大切にしくちやな。

板垣 いいですよそんな……。

ナイル いやでも健康診断落ちた時はびっくりしたな。なんか思わずガッポーズしてさ。良かったー、つって。自分じゃそれなりの覚悟があるつもりだったんだけどな。命も惜しくない、なんていつか。

板垣 まあ……そんなもんですよ。

少しの間。

ナイル そしたら顔は何、爆撃か何かでやられちゃったわけ？

板垣 多分、手榴弾って話なんですけど、自分じゃ何も覚えてなくて。その、怪我をして何日間かは記憶が飛んでいっちゃった。

ナイル　なんだったら一緒に検討してみる？　かつて板垣が書いた日記で、それを読んでギークが見た夢で、

板垣　うごきますよ。むしろぜひ話めですからね。

板垣はナイルから少し離れる。

板垣　でも、もしもエドトがここに来たなら、って思いつくわねって面倒くさね……。
ナイル　なに？

板垣　俺が自分の顔をその、無くしたみたいになった時にね、結構精神的にも不安定になったんですけど、随分あいつに助けられたんですよ。怪我をしてからしばらくの間は包帯グルグルっていつか、顔が無い状態でしたから……。

ふっつと。

板垣　ぼんやりしててるんですけどね……。多分、思っている以上に人間てのは、鏡に映っている自分の姿に支えられて出来てるんですよ。だからそれが変わっちゃって、わからなくなっちゃって、すげえ……。本当の顔とか、本当の気持ちとか、本当の自分が、なんだかこうしてはやり始めるんだよ。

舞臺上の人がギークが板垣の日記を読み始める。

板垣はギークの夢日記を読み始める。

◎午後　日記と夢と日記

板垣とギークはそれぞれ、書き手と読み手が逆になっている。

ギーク　明日から前線に行けるように志願した。何だかんだといつか一兵卒の馬鹿でも俺のこの興味で戦争に来た金持ちの坊ちゃんだと思ってる。食事の時間にも露骨にそれが出る。だいたい誰も俺と一緒に座りたがらない、ってあるじゃないか。「こんなものがお口に合いますか？」なんてことを聞いてくる。イヤだよ。クスビもだ。カルタのために戦つ同士の言葉、こんなクスビもと一緒にメシを食つのは戦闘よりも激しい苦痛だ……。

ギークの口をきく。ギークが止めるのも聞かずに来たとこのギークの口はからきんていまい。愚かだ。ギークとセックスをする癖を捨てて、ギークとオナニーにふける生活をキチンに入れる。うごいた何をしようのか自分もさっぱりわからない。苦痛。

板垣　今日はスランプが夢に出てきた。夢の中で争う。私はすごく興奮してしゃべって、スランプも顔を真っ赤にして怒鳴っている。だけども、そのうちにスランプは口をモロモロをせめてはっか

りになってちゃんとした理屈では私に返すことができなくなって、涙を流し始める。私はそれを見て
いっ気分。

ハービーの店のスピーカーが大きな木琴の音を出している。マリンバっていつのかな？ あれは。

スランプは私に跪いて謝る。ポロポロポロ、スランプの涙が宙に舞って音になる。音符になる。
謝っているスランプを良く見てみると、人数が増えている。涙があふれる。マリンバの音が跳ねる。
スランプが増えている。

跪いている大勢のスランプのうちの一人が、いつの間にかナイルになっている。私はナイルを踏みつ
ける。どうしてだろう？ 私はどうやってナイルのことを踏みつけてみたかったのかしら？ と思っ
て目を覚ます。

顔を洗って鏡の中を見ると、向うにスランプが立っていて息が止まる。私の夢の中の喧嘩が今でも
続いているみたい。バカじゃないかしら。あたしも、スランプも。

ギー「今日から監視塔での任務でしょう。塔はいつでもおぼろけで暮るヤグラと同じ言葉が似合
うような頼りないコロコロの塔。何かせよ志願が認められて最前線の監視塔に立てるとは嬉し
い。監視塔に登る扉画のはじきを登る時には足が震えた。」大丈夫だ。敵が来たら真っ先に気づく
のはお前だ」など、冗談を言われる。敵が恐ろしいのではない。俺は監視塔が高くて怖いのだ。どう
しようもないな。高い場所は何故怖いのだろう？ なんでかいつも仕方ないことを考えながら監
視塔に登り、今、その上をいれを書いている。双眼鏡と厚手の手袋。吐く息が白く。

さっき双眼鏡にして初めて敵兵というものを見た！ 身体の内側がフワフワする。笑いたいのか叫び
たいのか自分でもわからず、画面足をもじもじすり合わせる。ようやく戦争にきたんだ！

なにやら敵兵に動きがあるような気がする。少しも、わずかなことでも、総攻撃の準備のよつに感
じる。それは勘違いかもしれない勘違いではないのかもれない。もうすぐ総攻撃が始まる。それ
は本当なのかもしれない。

板垣 今朝は夢を見なかったような気がしていたけれど、このノートを開いて、パンを持ったら思い出
した。思い出したのが、今、自分で考え付いたのかはわからない。顔に怪我を負った板垣が、小さな
机を前にして座っている。板垣の顔は包帯でぐるぐる巻きのようになって、何も見えないので、目の前
に置いてあるコッパンを掴むことができない。パンは少ししゃしゃいって、二つに割ると
中からほかほかの湯気が出るような、まだ焼きだてのコッパンだ。その横にはスランプが作ったバ
ターが置いてある。このバターは本当においしいのだ。

私は意地悪をして彼にコッパンを渡してあげることをしていない。もぞもぞと手探りをする彼を見てい
る。何も出来ない彼を見ていて、とても幸せ。コッパンを手探りする彼を見ている私を、スランプ
が見ている。スランプは私と目が合うと、嫌なモノを見たといった顔をして、すすすと私の前に出て
板垣にコッパンを渡す。板垣はありがたそうにスランプに礼を言ってパンを食べる。ガツ
ガツとパンを食べる。

……私はスランプをぶん殴りたい。私はスランプをぶん殴ってやりたい。私はスランプをぶん殴った。するとスランプは殴られたクセに大笑い。本当にあたしのことをバカにしているのだと思ったり、くやしくて涙が出た。

ギーコ 夜半に総攻撃の合図が出るという。それまでの待機。仮眠を取っておくと班長に言われたがとてもそんな気持ちになれない。ただ、ただ、怖い。想像する力が根こそぎ奪われて、ただ、眼前の恐怖にだけ意識が固定されて動かせない。雨の音。雲の隙間から時おり月が見える。手が冷たい。

板垣 眠れない。ベッドで二時間ぐらぐろぐろしてから眠るのを諦める。代わりに板垣の日記を読んでみる。呼吸が浅くなって忙しいため息を沢山つく。何か大切なことを決めなくちゃいけないはずなのに、ちっとも考えがまとまらない。何をしたらいいのかわからなくなって、部屋の中をグルグルと歩く。

二人 書~~き~~言葉と書~~き~~言葉には身体がないから。

ギーコ 二人は一体どうやって出会ったらいんだろっ？

少~~し~~の間。

ギーコ グルグル歩いてても何も変わらない。それでも、グルグル歩くこと以外、出来ることが何も無い。

板垣 敵が攻めてきて、何もわからなくなってしまった。目の前が赤い。身体中どこを動かしても痛み。声がすつかり枯れてしまっている。口の中が乾いてつまく舌が動かせない。ぐらぐら。うめええ。つかれた。……ぐらぐら顔が無いらしい。俺の傍に、すつとつかつかつかつかっている男がいる。男？ 男だと思つ。何もしゃべらない。その男は俺の傍にいて包帯を取り替えてくれる。俺の身体を少しだけ拭いてくれる。俺の口に飲み物を運んでくれる。水が火のように喉を焼く。飲まなければ良かったと思つほど喉が痛い。胃が痛い。だけど痛みを感じている俺とは別の人間が、生きるために水を飲もつとっている。水が熱い。水が熱い。水が熱い……。

夕刻

◎夕刻 板垣とナイル

ナイル 水が熱いんだったらそれは……「お湯」だね。

板垣 そっす。そっす……そっす……そっす……そっす……そっす……そっす……そっす……そっす……

ナイル 知っている知っている。あーあ、じ……。

二人、日記を読むのを中断して一息ひ。

板垣 ナイルさんは、ずっとここにいますか？

ナイル ん？

板垣 港の方に出たりは、しないんですか？

ナイル 何、どういふ意味？

板垣 軍には戻らないんですか？

ナイル ああ、軍……。

間。

板垣 いや、ナイルってどこかで聞いたことあるなあ、と思ってミナトの方で調べてみたんですけどね、いや、驚きましたよ。まさかこんな町外れのさびれたガソリンスタンドに？ かつてのカルタゴ軍の大幹部が隠居してるなんて思っても見ませんでしたから。

ナイル 戻らないよ。

板垣 どうして？ あなたほどの人が？

ナイル 一応、辞めさせられているわけだからさ。大人しく隠居してんだよ。

板垣 それはあなたが協力的でなくなったからでしょう？

ナイル やめよう、そんな話は。今さら軍には戻れないし、戻る気もない。

板垣 そうですか……。すみません。

ナイル いや……。

少しの間。

ナイル あんたがギーロに貸している金っていつのはじむべからなの？

板垣 んー、あいつの持っている金の全てに近いんじゃないですか？

ナイル 乱暴だな。それじゃ交渉にならないじゃない。

板垣 わかんないですよ。株券とか土地とかは運用の仕方にもよる……。でもギーロって今でも結構金持ちなわけでしょう？

ナイル ま、そっだね。

板垣 だったら額はそんなとっちらかしていいよ。

ナイル んん？

板垣 あー、うちのじいさんがものすごい金を持ってるといつか、そっいつ人間だったんで。俺が預けた金っていつのは、大体、その分け前なんです。だからまあ、どっちらか……。

ナイル なんかおかしくないかそれ？ 金がどっちらかしていつんだったらつまりあんたは、ギーロに会いに来たっついでどう？ それなら、どっちらかして最初来た時、そっいつ風に言わなかったんだよ？ 結婚関係っていつか、マァ、少な〜とせむねに近しいような関係だったわけだろ？ あんたたちは？

板垣 まあ、そっですわ。

ナイル そしたらな〜で、金だけ返してもらえれば、みたいな、そっいつ言いだったんだよ？

板垣 そんなのわかぬじゃないですか。

ナイル なんだよ？

板垣 だって、俺がここに来たとき一番最初に出てきたのは、あなたですよ？

ナイル (無言でうつなずいてから) ああ、……そうか。

板垣 はい。

ナイル だけど俺はそういうんじゃないよ。そういうのじゃない。今は、もう……。

板垣 ナイルさんはなかなか俺を本物だとは認めてくれないでしょうね。俺とギーコが元通りになっちゃったら、ナイルさんの願望とはかけ離れた展開ですもんね。

ナイル、無言。

板垣 なんか、恥ずかしいじゃないですか？ もう帰って来なくてもいいよって奴が帰ってきたちゃって、そんでなんか、もう、人間関係的には居場所がないのかな、とか思ったんで。あー、だからスランプさんがあなたの奥さんだったらいいと思ったんだろっな。俺の願望ですよ。

ナイル うん……。

板垣 正直どうなんですか？ 人間関係的にはなんか、付け入る余地が残っているんですかね？ ギーコとナイルさんとの間……？

ナイル んー、頑張り次第じゃないか、君の？

板垣 ありがとうございます。あ……、頑張っていいんですね？ その一言、地味に超デカいですよ。

ナイル 超デカいんだったら地味じゃないよね。

板垣 あ、ほんとだ……。派手だ。派手にですかいっすよね。

スランプ登場。

スランプ ただいま……。

ナイル おっ、お帰り。

スランプ、元気がない。手ぶらである。

板垣 あ、どうせ。

スランプ あ……。

スランプ、板垣の存在に驚く。が、その疑問をすべてに追求する元気はない。

ナイル あれギーコは……？

スランプ すぐ来んじやない？ 車だよ。

ナイル そう。(板垣に)そしたらスランプ、彼に、ちょっと身体拭くタオルと食べるもの用意してやっつよ。

スランプ ええ？

板垣 あー、いいですか、そんなじじいって？
ナイル いいよいいよ。だって休んで無いんだろ？
板垣 はい。すみませんなんか。いや、砂がすいてほしい。
スランプ やだ。自分でやっぺ。

少しの間。

板垣 あ……、じゃあ、全然あの……。

ナイル 何でもいいから別に。ちょっと頼むよ。

スランプ、黙って奥に引っ込む。

ナイル (奥に向かって) 何、どしたの？

スランプ なに食べたいの？

ナイル んー、どしする？ 割とガツリ食べる？

板垣 (板垣に) や、腹も減ってますけど、とりあえず横になりたいなってどうか……。

ナイル (奥に向かって) じゃ、ちょっと軽いもんでいいよ。(板垣に) 悪いね、なんか。

板垣 やー、ありがとうございます。(小声で) なんかあったんですかね？

ナイル さあ？

◎時刻 セレクション

ギーコ、登場。スランプの分の荷物まで持っている。怒り気味。

ギーコ スランプは？

ナイル おう、いるよ。奥、奥。

板垣 おかえり。

ギーコ いただきます。ちょっとスランプ！ っっていうか……んん？ なんであんたが居るの？ しかも何、おかえり「っっっ」。

板垣 え？ や、自分も「いただきます」っ。

ギーコ それは条件反射的にさ、ええ？

板垣 や、ちよっつとさるあつて、

ナイル ま、めっつとさるあつて、

スランプ、濡れたタオルを持って再登場し、それを板垣に渡す。

スランプ はい。

板垣 あ、あ、どしせ。

ギーコ ちょっとスランプさん？ なんて荷物置いてサクサクいっちゃうわけ、ちょっと？
スランプ あたしのは別に置いていくわって構いませんけど？

ギーコ なんなの？ 謝ってんじやんとしかがら。
スランプ はあ……。

ギーコ いいじゃん、あんた一人だったら思いつきもしないことなんだから。

スランプ はんと取へないよそいつの態度は。ズン取へない。そいつなんか、開き直った感じじゃ、
ナイル なになに？ ゼウかつたの？

スランプ 別にどうもしないけど

ギーコ 違つただから、なんかこの子のクッキーがすごいおいしからね、コンガ・セレクション
ていつ、ちょっとづつかいお菓子のコンクールみたいのがあんだけど、それにあたしが応募して
あげただけだね。

スランプ 頼んでない！ なんて勝手にやっつてそいつの言い方すんの？

ギーコ それがなんか気に入らないんだって。

スランプ ちょっとね……。

ナイル なんで怒ってるの？ いじやん別にそんな、

ギーコ でしょ？ しかもね、それで見事コンガ・セレクションの佳作に入选したわけ。

ナイル お、それはばらばらいいじゃん。今日から君もコンガじゃね。

スランプ 全っ然すばらしくないし、コンガでもない！ むしろ最悪に近いよ、だってね、ふー
……、じゃ言っけね、聞いてちょっぴりだつて、この人、自分の名前でも応募してるんだよね？

ナイル あ、え？

スランプ ありえないでしょ？ そでこの態度だからね。

ナイル そつなの？

ギーコ それはだから、……あたしが応募するのは勝手にスランプの名前を書けいけないから、
スランプ 勝手にかいつんだら自分の名前を出すほうがよっぽど勝手にしょ？ っていうかそも
そも応募する前にあたしにこんなか一言あったらいいよって思ってますよ？ 何か当たる前だよ？

ギーコ だって……。
スランプ まだあるいはね、一緒にクッキー作りに励んできたとていつにならいいですよ？ しか
しながらそのような結果は一切ないわけですよ。あたしが、一人、作ってきたわけですよ？ な
んぞそれで応募して入選とかしちゃったの？ ぶつていついっしょ？

ギーコ 声が大きい……。

スランプ はあ？

板垣 だったらあの、賞品みたいなものをスランプさんがもらえば、ね、それでいいんじゃない？
ナイル ああ、そうだね。そうだ。

ギーコ あたしもそいつとてなだけじゃ、

スランプ だってただだけじゃないよー。何言ってるの、ほんとに……。あの賞品のことは
スランプに行ってお菓子について勉強してほしいって、その権利なだけだね

板垣 スランプ……。

スランプ そうだよ。てかスランプのいつだったらちよっぴやお菓子作ったとある人間ってはい

スランプ 何がですか？

板垣 あ、いや……。。

スランプ、無理に話題を転じて。

スランプ 板垣をばばいするつもりですか？

板垣 ん？ 何がですか？

スランプ お金。返してももらったらばばいするつもりですか？

板垣 ああ、それはまあ、……。全額慈善団体に寄付して？ 恵まれない子供達が救われるように使いますよ。

スランプ またそうやって……。。

板垣 何か変なことをしました？

スランプ ……え？

板垣 ん、なにが？

スランプ え？ ほら……。寄付するんですか？

板垣 ちょっと待ってください。ん……。。

板垣、考えませ。

板垣 ダメだ。子供達のいじりか考えられない。

スランプ 何なのほんと。

スランプ、少し笑う。

板垣 だってその質問に正直に答えたら俺なんか利益あるはず？

スランプ 利益なんかなくたって、質問には正直に答えるんです。

板垣 どうして？

スランプ べつに。

板垣 じゃスランプさんは利益に関係なく正直に答えるんですか？ ぶつな質問じゃ？

スランプ まあ、普通のことだから……。。

板垣 それじゃ質問したいことばばい、

スランプ なんでですか。

板垣 ギョーのいじり、本当はばばい思っているんですか？

スランプ 別に……。お友達？

板垣 お友達。もう少し詳しく。

スランプ うーん。昔からのお友達ってわけじゃないんだけど、大人になってから出来た数少ない友達の一人、……。かな。とか、あれ？ いじりいじりじゃない？

板垣 違う、結構お友達だよ。

スランプ　きっかけはあの、最初に会った時にものすごいギョロが酔っ払って、漬れる直前くらいか、そういう感じですか？　だから大丈夫ですかーって声かけて……、

板垣　すごいですね。じゃその時点では赤の他人の人を助けてあげたわけですよ。

スランプ　ま、それまでも見かけたことはあったし。なんかさう、ギョロは目立つ人だったし。

板垣　目立つ……？

スランプ　ホラ、顔の傷のこともあったし、

板垣　はいはいはい。

スランプ　ていつかあの傷って昔からずっとあったんですか？　その、板垣さんが一緒にいた当時から……。

板垣　初めて会った頃にはなかったですけど……。

スランプ　へー。え？　もしかして板垣さんが？　(殴るような身振り)

板垣　そんな悪いことしませんよ。事故で、さう。

スランプ　あー、事故。

板垣　そうですね。え、スランプさんが作るクッキーは何でうまいんですか？

スランプ　急に話変わりますね。

板垣　はい。その話はずいぶんかたくなっています。え、何でなんでしょうか？　なかなかブレインデーにひけたみたいなのは、……木の葉ですすめね？

スランプ　そうですね、まあ、クロの実なんでしょう。

板垣　クロの実ですか？　ふーん。

スランプ　あんまりお上品がらませた……？

板垣　ですね。

スランプ　クロの実をブレインデーにひけた、

板垣　ブレインデーはもう、モロにお上品がらみまわりました。

スランプ　でもお上品。よく分かりましたね。

板垣　儲かるんですけど……。

スランプ　まあ、お陰様です。

板垣　へー。

スランプ　でもあんただけ生活してはみるの、おぼろげな。趣味だよ、おぼろげ。

板垣　そんなじゃあおぼろげなガソリンスタンドの稼働……。

スランプ　そっちの方がもっと趣味。クッキーの半分も儲かれない。

板垣　え、じゃああなたでやっているんですか、スタンド……？

スランプ　ん？　なかなかだとしてガソリンってどうですか……？

板垣　……はあ……？

スランプ　なんか元々おぼろげな感じがして……？　『酒がお上品のガソリンだ』！

板垣　それは酒の話じゃない……？　ガソリンじゃない……。

スランプ　いいじゃない。とにかくガソリンが大好きなの。

板垣　へー？　そんな言い方初めてですよ。ガソリンマニアなんでしょうか？

スランプ　スランプマニアってわけじゃないけれど、ま、生活必需品、みたいな……？

板垣 そんなじゃ天職ですね、スタンドは。え？ そんなじゃあは「お友達」の稼ぎとやらっていつの間にかですか？

スランプ それもあったり。ていつかそれかな。

板垣 なるほど……。それでスランプさんは夫を寝取られても黙ってんじや。と。

スランプ そんなんじゃないって。元々ナイルさんは「お友達」の稼ぎとやらっていつの間にかわけたからや。

板垣 あ、そんな寝取ったのはむしろスランプさんのほうなんだ？

スランプ そんな寝取ったとかっていつの間にかやなへて、なへあたらしく親子みたいなもんだから……。。

板垣 親子なんですか？

スランプ 「みだいな」っていつの間にかやん。耳、あんのか？

板垣 すみません。

スランプ なに？ 質問はそれだけ？

板垣 うん。正直にしろる答えてもらいました。

スランプ 板垣さんはどうなの？ 何に使うとやするか、お金？

板垣 スランプさんなら100万あったら何に使います？

スランプ またはべらかして。せう、おはへらかして。へはへらかしてー

ナイル、戻ってくる。

ナイル いやいやいや……戦争だねじりや。

板垣 いや、恐ろしいですよ本当に。そわじや僕も、休ませてもらってんじやあな？

ナイル ああ、ごさげさ……あな「飯は？」

板垣 まあ、準備もあねべしよしく、せう、お寝床もあな？

ナイル そろ。じゃあ……。お休み。

板垣 はい。

板垣、退場。

ナイル、腰掛ける。

スランプ、ナイルに新聞を渡して、

スランプ はい。ミナトの新聞。

ナイル お、ありがとう。買ったきり読んでたんだ。

スランプ うん……。てか戻ってきたんだね？（板垣をた）

ナイル ん？ ああ……そろそろ。なんか港のほうで足止め食ってたってとき。歩いて来たんだってよ、「いい井水」。

スランプ な。おはへらかして。おはへらかして。

ナイル な。

少しの間。

スランプ 別にあたしだってギークが何、あたしの手柄をとるじゃないけどさ、そんなことしようとしたなんて思ってるわけじゃないんだよ。だってあの人がある、この町を出てズコンピに勉強に行くなんて、そんなことできるわけないし、本人だって望んでいないし、でもさあ、……あたしも何となく、いつかはコンガ・セルクシヨンに応募しようかな、なんて思ってたよって来たわけだから、やっぱりなんか納得のいくものが出来てからにしようと思ってたし、ま、納得のいくものが出来たってあたしだけだったらすっさと応募なしてしなかったのかも知れないけども……。

少々の間。

スランプ そりゃ嬉しいよ実際。名義とかはまあ、気にならないっていったら嘘だけど、あたしのクッキーが品評会に出て？、それがちゃんと評価されて入選、ていうか佳作ってことになったわけだからさ。だから嬉しいんだよね……。本当だったら嬉しいし、それと別に、「ギター」にありがとう、とか言いたいし、言えたよ全然。その方がいいのにな。仲良くなればいいのにな……。仲良くなればいいのはわかってるし、出来るのにな……。ギークがそんなに悪い人じゃないってのもわかってるし、本当は別に、「受かったら受かったね」ってさっさと気が持ったことなんて全然、あたしにだって理解できるからね。

ゼコン中にステップの転び音がし始める。

いつしかそれが爆弾の落下する際に空気を切り裂く音へと変わる。

セリフのおしまいに大きな爆発音。

同時に照明変化。

音楽。曲 in。

板垣 うん。……え、何を？

一人、抱き合っつのをやめて近くに座る。

ギーコ ね、ピコさんってどんな人だったの？

板垣 ん？ピコ？

ギーコ あの日記に出てくるじゃん。なんか恋人みたいなもん？

板垣 んー、のよつなもの。あ、そんなこと書いてあったっけ？

ギーコ きれいな人だった？

板垣 別にそつでもないけど。

ギーコ っも。

板垣 なんで？聞きたいそんなの？

ギーコ 別に気にしない。んーでもさ、何で日記なんか読ませよつと思ったのかなあ、と思っつ。

板垣 まあ、読んで欲しかったんじゃないかな。単純に。

ギーコ 自分が板垣だ、ってことを証明するため？

板垣 それもあるけど、……なんだろう、距離？ていつかさ、時間とか、空間とかさっつっつ、隔た
りっつっつかな。隔たりを、つなげなくちゃ、と思っつ。

少っの間。

板垣 別々に生まれた人間がせつかくーつになつたのに別れちゃつたわけでしょ？ だけどもっつやっ
てもっつ一回、一つになれたわけじゃない？

ギーコ うん。

板垣 多分俺たちはさ、ちょっと離れてたつただけで、ずっと繋がつてたんだと思んだよ、本当は。
っん。だから……。

ギーコ 喜びそう……。そんなと言われたら。

板垣 誰が？

ギーコ あたしあたし。

板垣 ええ？いま喜んでるわけじゃないんだ？

ギーコ 絶対嬉しいよ。本物だったらね。

スランプ、登場。

ギーコ ……なめさつてっつる時に思つたつただけじゃあ

場面転換。

板垣 ナイルさん、新聞の読みすぎなんじゃないですか？

ナイル どうかねえ？ 俺のこともあれこれ嗅ぎまわってるみたいだし。

板垣 いや、あれはたまたま知っただけですよ。ていつかエレファントの開発者っていったら軍の中では結構有名でしたし、

ナイル 別にエレファントは俺が一人で作ったわけじゃないよ。

板垣 すみません、こないだのはあんま深く考えずに言っちゃったんですけど……、

ナイル (手にした日記を指して) じゃあ、ピロっていつのは誰だよ？ え？

スランプ ピロ？

板垣 ピロってのはだから、……読んだんならわかるでしょ？

ナイル あれがいつも電話をしてる相手か？ ん？

板垣 違いますってだから。俺、スパイなんかじゃないですから。俺は本当に板垣だし、こつこついたら信じてもらえるんですかね？

ナイル 本当のじよを言えは信じてやるよ。

板垣 言っています。

ナイル、しっかりと座りなおす。他の二人もそれに合わせて少し改まった様子。

ナイル 最初に引つかかったのはあんたが手術した時に、なんで自分の顔に戻さなかったのか？ かっていじわる。

板垣 だからそれは…… (何度も言っているわけじゃないが)

ナイル まあそれはいいや。それは、いい……。それよりもっと疑問なのは、それほど大怪我をしたんならあんたは前線を離れたはずだろ？ その間、カルタゴ・ノヴァにも帰らず、あんたはどいどい何をやってたんだっ？

スランプ (ナイルの口真似) 「どいどい何をやってたんだっ？」

板垣 だから言ったじゃないですか、捕虜になってたんですよ。スキピオの。

スランプ え？

ナイル 捕虜……？ 全然聞いてないね、そんな話は。

スランプ うんうん。聞いてない。

板垣 あー、そつでしたっけ？

ギーコ あたしは聞いてたよ。

ナイル へー？ 俺には隠しておじっつて？

板垣 じゃなくって別に、ほんと無意識で。

ナイル だとすると、君はスキピオの人間ということになるよな？ フェムト君？

板垣 違いますよ。だから俺は板垣ですよ。

ナイル だけど、フェムトという人間は、スキピオ軍の人間だったわけだろ？

板垣 まあ、そうですね。

スランプ ん？ 誰、フェムト君て？

板垣 あの、俺が怪我をした時に看病してくれた奴なんですよ。

スランプ はいはい……。

ギーコ もう全部話しちゃえは？

板垣 あーもー面倒くさいな……。あの、前に、うちがじいさんがえらい金持ちだったっていったじやないですか？

ナイル 聞いたね。

板垣 そのじいさんてのはカルタゴの貿易商だったんですけどね。

スランプ 貿易商。

板垣 だからスキピオにも知り合いが沢山いて、その、フェムトの家ってところのもじいさんの知り合この家だったんですよ。お得意様っていつか。

スランプ へー。

板垣 で、怪我をした時に俺の下着に家紋が入ってしまって、それを向こうの人間が見て、「ああ、あの板垣の坊ちゃんだ、大きくなってー」って叫ぶくらいなんですよ。それで俺は特別にフェムトの家で面倒を見てもうええところになった……。……。

ナイル するするしててもまあ……（嘘が出てるんだ）

板垣 本当の話ですか？

ナイル じつはじつな。

板垣 最後まで聞いてください。それで俺は、……うーん4、5年になものかな、それと適当にじいじいになったんですね、

ナイル 4、5年？ すべて死んだんじゃない無かったのか？ フェムト君は？

板垣 そうですよ。だからフェムトが死んだ後も俺はその家に居残って、

ナイル 図々しいね、随分。

板垣 その頃はフェムトの妹さんに可愛がられるようになってました……。……。……。……。……。……。……。……。……。……。……。

スランプ ああ……（納得）。……。……。……。

板垣 ま、ま、ラブの話が始まりましたんですけど……。……。……。……。……。……。……。……。……。……。……。

ギーコ ……。

スランプ ……。

板垣 ……。

ギーコ ……。

板垣 それでそのうちフェムトの家もそれなりに金持ちになりましたから、俺の顔を元通のようになっていって……。……。……。……。……。……。……。……。……。……。……。

ナイル ……。

板垣 ええ、ちょうど第四次ベルベル戦争が終わるころかかって、……。……。……。……。……。……。……。……。……。……。

ナイル ……。

板垣 だから最初はあの、わざわざカルタゴから俺の顔写真を取りよせて、元通りにして貰ったって話になったんですけど、フタ開けてみたらこの、今の顔になって、当然、俺そのことを「ピ」に聞いて詰めました。

スランプ はあ。

板垣 「ピ」の言い分はこうです。……顔が元に戻ったらあなたは必ずカルタゴに戻って、ギー「さん」という人のところに戻ってしまうだろう。だから顔を全然違うものにしてしまえばあなたも帰るのを諦めて、ずっずっ「ピ」と一緒に暮らしていくわんじゃないかい？」

ナイル じゃあ、そうしてりゃ良かったじゃない？ なんで「ピ」帰ってきたんだよ？

板垣 いや、一日は僕もその説明を聞いて、これも一つの愛情表現なのかなと思っただけで………ちょっとした偶然で「ピ」の昔の恋人って奴の顔を知る機会がありました。

スランプ 昔の恋人？

板垣 はい。俺と出会う前、「ピ」にも恋人が居たんです。そいつはベルベル戦争で死んでしまったそいつなんですけどね……。や、や、や、今俺の顔を「ピ」に返して貰ったのは、今俺の顔を「ピ」に返して貰ったんですよ。

スランプ え？ じゃあ今のその、それは、「ピ」さんの、元カシの、フェイス？

板垣 まあ、そいつ「ピ」じゃあ。

スランプ あらび……。

「ピ」の間。

板垣 まあ、その元カシ君にはなんの恨みもありゃしないんですけどね、だけど、一生そいつの身代わりとして過「ピ」に行「ピ」ってほど愛着も持てませんでしたから……。

ナイル で、今でもスキ「ピ」に帰れば「ピ」って女が君のことを待ってる、よ？

板垣 もうそんな気はないですよ。今は、「ピ」に残るって決めました。

ナイル 決めましたって、よ、よ、よ、逃げて帰ら「ピ」って出来なかっただけだろ？

スランプ ぶっ「ピ」に残るって決めただけですか？

板垣 そりゃ元々俺はカルタゴの人間だし、こっちはギー「コ」もいるし。スキ「ピ」にいたって所詮俺は誰かの身代わりになかなれないわけですよ。だから俺の居場所はやっぱりカルタゴにしか無いんだって思ったし、

スランプ うんうん。

ナイル 騙されるなよ。こいつ最初来た時になんて言っただよ？ 「カルタゴは「ピ」何十年かはダメ

だ」って、そいつ「ピ」じゃないか？

板垣 騙す必要なんか何もないでしょう。騙すって何だよおまえ、

ナイル いや、その話は本当の本当の話だ、って言い切れるのかよ、え？

板垣 別に、普通に本当の話じゃあ。

間。

少しの間。

ナイル よく出来た嘘と本当は同じ？

板垣 俺も聞きたいんだけどさ、

ナイル うん、なんだ？

板垣 ナイルさんはどうしてギーコを作る時に顔の傷を残したの？ 周りの人間に不振がられたんじゃない？ だってギーコ「ババ」ちゃんとした金を持ってたらその傷をもっと目立たないように変えるべからい、……ね。

ナイル 何だろう、……彼女自身が残したものだから？

板垣 死ぬまで？

ナイル うん。死ぬまで。

ギーコ そんな話したじゃん、昔？

ナイル え？

ギーコ あたしらがこの世に残せるものは傷だけだと思うから、それは全部受け入れよう、っ。

板垣 俺が言ったの？

ギーコ 生活するっていうのは多分、もともと完全だったものを傷つけて傷つけて、とんだつまずなうものごとくして行くってことだから。だからそのちょっと残念な感じも含めちゃうと全部受け入れようって……。忘れちゃった？

板垣 いったかもある、……ごしたよ。ごすしか、今の今まで生きてたさ。

ギーコ 今のごすでもご記憶の日なんか覚えてごすべからい。

板垣 (笑) ……。ほらごすよく出来てるね。あごすよく昔の約束も……。ナイルさんがインプリントしたの？

ナイル、無言で頷いてから、

ナイル まあ、君だってフェムト君が演じているんだとすれば大したもんだだけさ。

ギーコ 今のごすでもさならさすれば、板垣が本当に生きているんだと思っただけさ。ごすけるのかもしれないね。

ナイル そうだ。

ギーコ そっちの方が板垣本人と一緒に過ごすことの方が、ずっとスナキなことなのかもしれない……。

板垣 俺は板垣だよ。ていつか君も、え、本当に「セモノ」なの？

スランプ だから、エリファントは身代わりではあっても「セモノ」ではないとさすっ。

ギーコ それでもあたいと一緒にごすか？

問。

板垣 居たい。

間。

板垣 うん。一緒に居たいんじゃないかな。

ナイル はあ？ 君も何言ってるんだかわかんない人だね、お金を取りに来たんじゃなかったの？

板垣 最初はそれもありましたけど、今はなんか、そんなことわかんないですよ。

ギーコ 確かなのは、戦争が終わってもすぐには帰ってきてくれなかったってことだよ、今になったけど帰ってきてくれたってことじゃない？

ナイル (板垣に) だからそれは金を取りに来たんじゃなかったのかよ？

ギーコ ねえ、あんた本当にそれで来たの？

板垣 まあ、嘘ではないよ……。金も欲しかったんだろうし、あと、なんかもう一度カルタゴを見ておきたかったのかもしれないし、カルタゴ・ノヴァを見ておきたかったのかもしれない……。あとほだけび、これらも本当だけびさ、会いたかったんじゃない？

ギーコ ……。

板垣 う思ひよ。

ナイル ギーコがエレファントだってわかってても、これに居残るつもりじゃないよ、やっぱり君の目的は俺の技術なんじゃないのかっていう考え方も出来ちゃうんじゃない？

板垣 どうでもいいですよあんたなんか！ だったらギーコと二人にさせてくださいよ。ここを引越してわさる。ま、ギーコが認めてくれればいいよ。

ナイル おい、ちゃんとわかってんのか？ これは君の知っているギーコじゃないんだよ？

板垣 いや、わかんないですよ。ちゃんとなんてわかってないのかもしれないけど、なんか直感的にそう思ってますよ。エレファントには何にせよ、もうこのギーコは俺にとっては限りなく本物のギーコだから……。。

間。

ギーコ もういいんじゃない？ ナイル。

ナイル うん……。うん……。

ギーコ 誠意は十分伝わったと聞いていいよ。

ナイル 誠意っていつのか、どうなの。

板垣 ん、え？ 何が？

ナイル いぬ。あの、ギーコが死んだって聞いてるのは嘘なんだ。

間。板垣が絶句している。

ナイル (ギーコを指して) この人は、エレファントじゃない。人間だ。

ギーコ あたしは一言も言っていないからね。

板垣 何？ ええ……？ ええ？ なんだよ、すげえ騙されたよ。ええ？ そんじゃギーコは、なんだよ、ええ？ ギーコなんだよね？ おいおいおい……。

板垣、脱力している。

と、遠くで小さく爆撃の音がする。

続いて複数の飛行機が飛んでいる音。

ナイル、空を見て、

ナイル おお、早くもって感じだねえ。

スランプ 交渉が決裂？

ナイル ま、最初からスキピオに交渉する気があったとは思えないけどな。

スランプ ま、なるようにせよ。

ナイル 頼りにしているよ。

スランプ はいはい。

ギーコ (ナイルに) ねえ、守ってもらいしもりだったの？

ナイル え？

ギーコ いやスランプにさ。なんか板垣と喧嘩みたいになっちゃったり。

ナイル そうそうそう。カズクになっただらね。

板垣 え？ スランプさんが？

スランプ やめてって暴力は。

ギーコ やっぱそれ狙いか……。情けな……。うわ情けな！

ナイル いいだろ自分で無理するよの。いじり守ってもらった方がよっぽど確実なだから。

ギーコ ま、そりゃそうだけど……。だったら守ってくれば良かったのに。

ナイル ん？ 何を？

ギーコ ナイルがエレファントを沢山沢山作ってくればさ、カルタムは戦争に負けずに済んだわけだしよ？

ナイル 少しの間だよ。

ギーコ いいじゃなそねだして。少々の間じゃね。

ナイル それでまたエレファントがどどど作らわって？ そんな壊れわって？ いやなんだよせつ、そんなのは！

ギーコ カルタムがどどど作って……

ナイル そりゃ、良くはないよ。良くはないけど……。でも無駄なんだよ、そんなことして。無駄なんだ。

少々の間。

スランプ 頑固だから。

爆弾の音がボンボンしている。

板垣 守るとかっつて、え、なんですか？ そんなに強いんですかスランプさん？

ギー「 そりゃあ、ねえ。

スランプ 人間には負けないよ。

ナイル、二度つなまっへ。

再び爆撃の音。

激しくなりつつも現実感のなくなっていく爆撃音。

と、鳥かごが自然に倒れる。

幕